

1. はじめに

釧路市は、北海道の太平洋岸東部に位置し、その場所は根室市、北見市、網走市、帯広市など東北北海道の主要な都市を結ぶ扇の要にあたります。各都市とは広域幹線道路や、JR根室本線等で結ばれています。空港、港湾を有し、東北北海道の拠点都市として広域的な発展をリードする役割を担っており、特に釧路港のもつ物流機能はオホーツク圏や十勝圏までの広がりをもつ重要な役割を果たしています。



また、釧路湿原国立公園、阿寒国立公園の2つの国立公園のほか、周辺に数々の国立公園、国定公園、道立自然公園があるなど、道内においても有数の自然環境に優れた地域です。

2 コンパクトなまちづくりに向けて

現在の市街化区域面積は5,272ha。平成22年度の国勢調査人口181,169人のうち約94%が市街化区域に居住しています。内陸部には国立公園が広がっていることから、海岸線から6km以内の開発を基本として市街化区域を形成してきており東西に細長い形状となっています。

釧路市も他の地方都市と同様に人口減少、都心部の空洞化、市街地の低密度化が課題となっており、都市の維持に危機感を感じています。

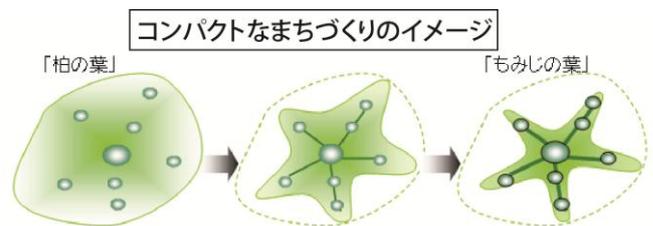
このようなことから、一昨年より、市街地全体の効率的な都市構造を求め、庁内にコンパクトなまちづくりに向けた研究会を立ち上げ、コンパクトシティ推進のエンジンになり得るものは何かについて、庁内での意見交換を行ってきました。

3 コンパクトなまちづくりに関する基本的考え方

こうした庁内議論を深め、年内には「釧路市のコンパクトなまちづくりに関する基本的考え方」を策定公表し、各種の事業に生かすとともに市民の意識も高めていこうと考えています。

この中で示すまちの構造は、多芯連携型を基本とし、「柏

の葉」から「もみじの葉」への転換をイメージしています。下図の「柏の葉」の○の部分には商店街が形成されるなど一定以上の都市機能がすでに集積されている地区を示しており、その部分を拠点に位置づけ拠点間の接続を密接にし、それら周辺に居住が誘導され、将来的には市街化区域の面積は変わらないが、居住が一定の区域範囲内に集中した様を「もみじの葉」にイメージして進めようと考えています。



また、考え方の基本としているのは、公営住宅など公共による整備も選択と集中により拠点を中心に行うこととなりますが、地域との協働によりソフト事業なども含めて魅力ある拠点づくりを行うことによって、居住が誘導され、さらに民間機能も集中し、日常の生活が地域内で完結できる拠点づくりを目指しています。

現在、設定を進めている具体的な拠点を示したものが下図であり、都心部のほか7か所をその性格によって「地域交流拠点」、「生活拠点」とし、拠点どうしを接続する幹線道路も機能集積軸として設定しています。



今後は、これらの考え方をより実効性の高いものとしていくために、方針の策定と並行して具体的取組を進める集約拠点のモデル地区の選定を進めます。拠点性向上に効果的なことは「魅力ある地域拠点づくり」という視点でコンパクトなまちづくりを進めていこうと考えています。